

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成28年6月1日

計画の名称	快適で潤いのある環境の創造と活気あふれる“みなと”まちづくり																
計画の期間	平成22年度～平成26年度(5年間)					交付対象	那覇港管理組合										
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨港道路や港湾緑地及び離島フェリーバースを整備することにより、市民や来訪者が港や海に親しめる空間を確保し、快適で潤いのある環境を創造する。 沖縄県を訪れる外国人観光客数の動向は、クルーズ船による観光客が重要な位置を占めている。外国人旅客増大に向けた、公共サービス機能の充実、那覇港における新たな魅力づくりに向けた、旅客ターミナルなどの賑わいの場の創出を図る。 既設ふ頭の再編、利用転換を行い、効率性、利便性、安全性の向上を図る。 施設の適切な機能を維持するために効率的・効果的・計画的な維持管理を実施する。 																
計画の成果目標(定量的指標)	<p>那覇港のウォーターフロントの利用者数について、103千人/年(H21)から483千人/年(H26)に増加 那覇港は、平成20年に外国クルーズ船が寄港した全国1位の港でもあることから、旅客船入港隻数について、57隻/年(H21)から70隻/年(H26)に増加 那覇港泊ふ頭地区の泊地が狭隘で危険であることから、那覇ふ頭～離島フェリーをシフトすることにより、効率性、利便性、安全性の向上を図る。 国有港湾施設を除く、那覇港の港湾施設について、効率的・効果的・計画的な維持管理を実施するため、維持管理計画を策定する。 既存施設の延命化を図るために計画的な施設改良を実施する。</p>																
定量的指標の定義及び算定式										定量的指標の現況値及び目標値		備考					
										当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)		最終目標値 (H26末)				
① 那覇港のウォーターフロント利用者数を推定する。										103千人	446千人	483千人					
② 那覇港の旅客船入港船について、隻数をカウントする。										57隻	66隻	70隻					
③ 那覇ふ頭地区の周辺離島フェリーバースの整備率を算出(フェリーバース全延長L=455mの内、L=300m整備)										0%	0%	66%					
④ 効率的・効果的・計画的な維持管理のための計画策定施設数(係留施設・橋梁・外郭施設 57施設)										19箇所	57箇所	57箇所					
⑤ 既存施設延命化のための維持管理計画に基づく施設改良完了箇所数(全19箇所)										16箇所	18箇所	19箇所					
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,003百万円	A	1,734百万円	B	0百万円	C	269百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)		13.4%						
○事後評価の実施体制、実施時期																	
事後評価の実施体制						事後評価の実施時期											
那覇港管理組合						平成28年度											
						公表の方法											
						那覇港管理組合のホームページで公表する。											
1. 交付対象事業の進捗状況																	
交付対象事業																	
A2 港湾事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	港湾種別	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積・水深等)	港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
1-A1-1	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	臨港道路那覇1号線改良	道路植栽(L=1,680m)	那覇港・那覇ふ頭						31	
1-A1-2	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	臨港道路那覇2号線改良	道路拡幅(L=590m)	那覇港・那覇ふ頭						87	
1-A1-3	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	建設	波の上緑地整備	緑地整備(A=55,000m ²)	那覇港・那覇ふ頭						442	
1-A1-4	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	建設	緑地(東)整備	緑地整備(A=23,000m ²)	那覇港・浦添ふ頭						470	
1-A1-5	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	建設	緑地(南)整備	緑地整備(A=7,000m ²)	那覇港・新港ふ頭						7	
1-A1-6	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	臨港道路改良	港湾1号及び2号の改良	那覇港全域						570	
1-A1-7	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	泊地(-9.0m)浚渫整備	泊地浚渫(C=68,000m ³)	那覇港・那覇ふ頭						102	
1-A1-8	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	-	長寿命化計画策定事業	係留施設(46件)、橋梁(2件)、外郭施設(9件)	那覇港全域						12	
1-A1-9	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	緑地(泊)整備	人道橋 W=6.0m、緑地 A=500m ²	那覇港・泊ふ頭						13	
1-A1-10	港湾	沖繩	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	重要	改良	物揚場(-4.0m)整備	物揚場(-4.0m)(L=300m)	那覇港・那覇ふ頭						0	
											小計(港湾事業)			1,734			
											合計			1,734			

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
1-C1-1	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	建設	旅客ターミナル整備事業	船客待合所の整備	那覇港・泊ふ頭						30	
1-C1-2	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	-	ボートセールスの実施	物流、クルーズボートセールス	那覇港全域						1	
1-C1-3	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	-	那覇港クルーズ船受入促進		那覇港全域						15	
1-C1-4	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	建設	那覇港サイン計画	案内標識	那覇港全域						33	
1-C1-5	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	建設	清掃船の建造	1隻（老朽化のため）	那覇港全域						97	
1-C1-6	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	-	機能再編検討調査	那覇港全体の機能再編検討	那覇港全域						5	
1-C1-7	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	-	環境影響評価調査	環境影響評価（事後調査）	那覇港・浦添ふ頭						3	
1-C1-8	港湾	沖縄	那覇港管理組合	直接	那覇港管理組合	-	那覇港物流効率化検討調査	物流の効率化調査	那覇港全域						85	
合計													269			

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C1-1	基幹事業(1-A1-1,1-A1-2,1-A1-3)と一体的に整備することにより、沖縄と国内外を結ぶクルーズ船の寄港・就航を促進し、国内外の観光客受け入れ体制の強化を図る。	
1-C1-2	基幹事業(1-A1-3)と一体的に整備することにより、船社への誘致活動・広報活動を行うことで、那覇港の発展に寄与する。	
1-C1-3	基幹事業(1-A1-3)と一体的に整備することにより、大型旅客船の寄港の際に歓迎セレモニー等を開催し観光客との交流を通じ国際交流拠点づくりを支える。	
1-C1-4	基幹事業(1-A1-1,1-A1-2,1-A1-6)と一体的に整備することにより、人流拠点や主要地点に那覇港案内板等の観光施設案内板を設置することで人流の円滑な流れを促す。	
1-C1-5	基幹事業(1-A1-3)と一体的に整備することにより、港の環境が改善され、港の利用促進が図られる。	
1-C1-6	基幹事業(1-A1-10)と一体的に整備することにより、機能再編業務を進める。	
1-C1-7	基幹事業(1-A1-4)と一体的に整備することにより、環境に配慮した緑地整備を図る。	
1-C1-8	基幹事業(1-A1-6)と一体的に整備することにより、臨港道路の交通渋滞を緩和し、貨物の円滑な輸送が図られる。	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・波の上緑地及び緑地（泊）を整備したことにより、地域住民の快適性及び利便性が向上した。また、平成27年3月には、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、国から「みなとオアシス那覇」の認定を受けた。 ・泊ふ頭地区の旅客ターミナルビルを整備したことにより、クルーズ船利用者の安全性、快適性、利便性を確保することができた。 ・泊ふ頭地区から那覇ふ頭地区への機能移転について、機能再編検討業務を実施したことにより関係者の貴重な意見を取りまとめることができた。 ・維持管理計画書を作成したことにより、既存港湾施設機能を効率的・効果的に確保し、適切な維持管理の方向性を検討することができた。 ・既存施設延命化事業を行ったことにより、機能が損なっている港湾施設において、機能回復を図ることができた。
--------------------------------	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（ウォータースタッフフロント利用者数）	最終目標値	483千人	目標値と実績値に差が出た要因	・新港ふ頭地区における緑地が未整備であることから、最終目標を達成することができなかった。
		最終実績値	380千人		
	指標②（旅客船入港船の隻数）	最終目標値	70隻	目標値と実績値に差が出た要因	・ボートセールスにより、沖縄県がアジアと日本本土の中心に位置する優位性や独特の自然環境の魅力を広く発信したため。
		最終実績値	80隻		
	指標③（那覇ふ頭地区の周辺離島フェリーハースの整備率）	最終目標値	66%	目標値と実績値に差が出た要因	・泊ふ頭から那覇ふ頭への機能移転について、関係者の意見等により事業を見直したため。
		最終実績値	0%		
	指標④（維持管理計画策定施設数）	最終目標値	57箇所	目標値と実績値に差が出た要因	・平成23年度は社会資本整備総合交付金で28箇所を策定し、平成24年度以降は更なる進捗を図るため他交付金で106箇所を策定した（19箇所は平成22年度以前に策定済）。
		最終実績値	153箇所		
	指標⑤（維持管理計画に基づく施設改良完了箇所数）	最終目標値	19箇所	目標値と実績値に差が出た要因	・地域住民等から強い要望のある箇所を優先したことから、最終目標を達成することができなかった。
		最終実績値	17箇所		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	・臨港道路において交差点改良を行ったことにより、物流輸送について那覇港と背後地または那覇空港との連携を図るとともに各ふ頭間の円滑な交通を確保することができた。 ・また、緊急輸送路に指定されている臨港道路において液状化対策を行ったことにより、一部区間で災害時に港湾貨物の円滑な輸送を確保することができた。
--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

・引き続き、緊急輸送路に指定されている臨港道路において早急に液状化対策を行い、災害時に港湾貨物の円滑な輸送を確保するように努める。

(参考様式3)

(参考図面) 活力創出基盤整備

